

高知放送

活動名	高知放送「土佐の昔話」読み聞かせ事業
実施期間	令和6年6月～令和6年11月
実施回数	会場2回
配信期間	令和6年6月～令和7年3月
配信作品数	4本

【事業実施の成果・課題】

高知県内の小規模校を選び、計 2 回実施した。テーマは「土佐弁で書かれた高知の昔話を子どもたちに知ってもらう」こと。2013 年に亡くなった市川麟一郎先生が高知に伝わる民話を収集しており、その中から弊社高知新聞グループより出版されているものをチョイスした。それを高知出身のプロの読み手に講師を担当してもらうことで、例えば「昔まっこう猿まっこう」という土佐の昔話の最後に登場する独特の言い回しなどを子どもたちに知ってもらうこともできたと思う。また土佐弁による昔話も子どもたちには新鮮に映ったのではないだろうか。

大規模校であれば子どもたちと絵本の距離が遠くなり、子どもたちの視線は届かなくなってしまう。多人数を相手にした読み聞かせの場合、「絵」に頼らずお話だけのものでも実施するということも考えたいと思う。

また、読み聞かせの実施に当たり、出版社との著作権料で予算と折り合わない側面もあった。今回は著作権料を請求されないものを選んだが、次回以降の課題だと感じた。

【事業担当者およびアナウンサー（講師・読み手）の感想】

<高知放送記者 井上琢巳（朗読担当・元アナウンサー）>

低学年に向けた「土佐の民話」の読み聞かせは、児童たちが改めて普段使っている「土佐弁」に関心を示していました。児童たちは図書館などでは人気の絵本作家の作品を普段は読んでいるようで、地元の昔話を土佐弁で「読み聞かせ」を体験する機会は少なく、新鮮に「読み聞かせ」を楽しんでいました。あらためて自分たちが使っている言葉を意識する時間となったようです。

【教諭・保育士・子どもたち・視聴者などの感想】

【浦戸小学校】

<難波江明美 校長>

低学年の子どもたちは読み聞かせが大好きで、読み手の工夫（選書、声の抑揚など）によって想像力をフルに働かせ、友だちと思いや感想を共有することにより、絵本の世界に浸ったり、本を読むことの面白さを実感したりします。今回は、井上アナウンサーの読みの工夫により、子どもたちは絵本の世界に引き込まれ、学校で通常行う読み聞かせの時間より長い時間での読み聞かせであったにもかかわらず、読んでいただいたそれぞれの本を各自がその子なりに楽しんでいたように思います。また、民話であったことから、話の面白さに加え、独特の語り口調や言い回しや、普段意識していなかった「土佐弁」に気付くよい機会であったと思います。これをきっかけに「土佐弁」にも親しみを感じてほしいと願っております。読み聞かせの研修もあるくらいですので、読み手の側にも、どの

ような本を、どのように読むかということを意識することが必要だと思います。そういった意味でも今回の読み聞かせ事業は本校教員にとりましてよい機会となったと思います。

<今田依杏 教諭(1 年担任)>

子どもたちが楽しそうに読み聞かせを聞いていて見ている私も楽しい | 時間を過ごさせていただきました。高知の昔話ということだったので、普段から使っている「土佐弁」にも触れることが出来て良かったです。井上さんの抑揚のある読み聞かせ、間、読み手の表情などとても勉強になりました。絵本のように絵もありましたが、1 年生はお話をきいて場面を想像するのが難しいので、紙芝居など絵がより多くあるとお話がもっと分かるのではないかと思います。

< 1 年生の感想>

- ・むかしのこうちのおはなしをきいてたのしかったよ。おならのはなしがおもしろかった。(女子)
- ・おもしろいおはなしがたくさんあったのしかった(男子)
- ・いろいろなほんをよんでもらってうれしかった。いろいろなおはなしや、さいしょにくいをしてもらえてうれしかった(男子)
- ・とさべんのことやむかしのおはなしをみれてたのしかった。くいがおもしろかった(男子)
- ・わらしばんばをきいてわらいごえがおもしろかった(男子)

<渡邊太一 教諭(2 年担任)>

導入でしていただいたゲームから子どもたちが井上アナの世界に引き込まれていたように思います。普段読み聞かせを自分がしても選ぶ本や内容が偏ってしまい、もっと児童の読書の幅を広げたいと思っていたところでした。今日読んでいただいた本たちは子どもの読書欲を広げるようなものだったように感じます。また今日のテーマとして設定していただいた、よく聞くこと、よく見ることも子どもたちにとってわかりやすかったように思います。授業や学級での活動内だけでは友達の話をよく聞くことが難しいなと感じるところもあったため、その中で今回のテーマは非常にありがたかったです。そのテーマに沿った手遊びゲームや昔話、絵本だったのも、自分自身教員として勉強になりました。

< 2 年生の感想>

- ・わらしばんばの話してアブがどんどん大きくなって声がだんだん大きくなったところが面白かったです。たくみさんの声も変わっていくのも面白かったです。(男子)
- ・とさべんをつかう時があったらたくみアナウンサーが読み聞かせに来てくれたことを思い出してみたいです。すてきだったことは、場めんがかわたりしたら声をかえていたところがすてきでした。(男子)
- ・おならの話、音が変わって自分のおならでびっくりしておきたのがおもしろかったです。またきてください。(男子)
- ・声をかえて読んでいてすごかったです。声をかえていくとちがう人がしゃべっているようでした。そのお話を聞いて面白かったし、高知でふるかったときのことを分かりました(男子)
- ・読んでくれてありがとうございました。ちがう学校とかはいくえんでもがんばってください。おならの本が面白かったです。(女子)
- ・声をかえてみんなに聞こえやすい声で聞こえやすかったです。みんなにわかりやすくクイズを出してくれてありがとうございました。8 をとばしていたところがとってもおもしろかったです。ありがとうございました。(女子)
- ・本を読んでいる時に、ところどころで声をかえていたのがすごかったです。女の人がかさを作っているお話と、おならの話が面白かったです。おならの音の人が言ってるように聞こえるところです。女の人がかさを作っていてお月さまのところへ行ったところです。また読み聞かせに来てください。ありがとうございました。(女子)
- ・へんなおならがおもしろかったです。りゆうはおならでどろぼうがにげるのがおもしろかったし、しりにだいこんをつっこむのがおもしろかったです。(男子)

・読み聞かせて人ぶつまねがじょうずだったです。クイズができてたのしかったです。わらいばんばのあぶの笑い方がおもしろかったです(男子)

< 3 年生の感想>

・読み聞かせを聞いて声がひとつひとつおもしろくて、聞くのがたのしかったです。土佐べんはあまりつかってないと思ってたけどふだんもけっこう使っていたと分かりました。私が一番おもしろかった話は「びんぼうがみ」です。リゆうは声が小さくてこわがってるかんじの声でおもしろかったです。福の神の音がうまくてびっくりした。(女子)

・大人は本を読むのがうまいなと思ったし字をすらすら読んでいたからすごい聞きやすかったです。ぼくはたくみさんみたいに本を読むのが上手になりたいしみんなに聞こえやすい声で本を読みたいです。(男子)

・みんながとさべんを使っていることがわかった。知らないむかしばなしもあったので、面白かったです。(男子)

・土佐べんを効かしてみれば、何を言えいいか分からないけど、ふだん日じょうでたくさんつかってるし、まだまだ知らない土佐べんがたくさんあってびっくりしました。高知や土佐のむかしばなしはおもしろい話がたくさんあったのしかったです(女子)

・わたしはよくきくこととよくみることをまなびました。とさべんがあったけどだいたいわかった。じぶんでよむのもすきだけど、人によんでもらってもたのしいのがわかった。よみかたはいままでで一番うまくておどろいた。ほんのないようがよくわかった。(女子)

【高石小学校】

<植村あゆみ 教諭(1 年担任)>

土佐の民話は方言など聞きなれないことばもあり少し難しいのではないかと思いましたが、さすがアナウンサーの力で子どもがわかりやすく喜ぶような読み方でひきつけられ最後まで聞けました。内容的には 3・4 年生でもよかったかと思いました。

<山崎洋子 教諭(2 年担任)>

土佐の民話は子どもたちにとってあまりなじみがないものですが、今回聞く機会がありよかったと思いました。絵本も子どもたちが興味ある内容を選んで下さり、集中できていました。ありがとうございました。

【読み聞かせ】

< 1 年生の感想>

・「おならばなし」がいちばんおもしろかった。(男子)

・「やまばあ」がいたらこわいと思った。おならのはなしがくさそうだなあーと思った。指遊びがわからなかったけどおもしろかった。(女子)

・ゆび遊びがたのしかった。マジックみたいですごくかった。(男子)

・おならのはなしでおならで話をしたことがおもしろかった。(男子)

< 2 年生の感想>

・ぼくは土佐の昔話でおもしろかったのはおならの話です。ふしんしゃがはたけからもってきた大根をおじいちゃんのおしりにさしたのがおもしろかったです。(男子)

・とさの昔話でおならの本の人の声のえんぎがよかったです。またきてください。(男子)

・とさの昔話でおもしろかったところはおならの話です。おじいさんがだれなら、だれならって言って、泥棒がにげたところです。本をよんでくれてありがとうございました。(女子)